

注目ポイント！

- 「まちづくりのための観光振興」の視点に立った事業を展開。
- 行政、民間、住民の3者が協働して観光振興を推進。

紅葉期だけでなく観光シーズンが通年化
観光客数は約163万人から約196万人に！
(平成元年) (平成16年)



香嵐渓

コラム

「観光とは、交流の中で地域色豊かな文化遺産を公開、保存、承継しながら地場産業を育て、お金を得ながら愛郷心を高めるもの」というまちづくりの理念を自ら確立させた。その独創的なアイデアと行動力、市場原理を考慮した緻密な計算、人材の登用や育成の手腕をふるい、紅葉期だけ賑わう観光地を通年型観光地に変えた。



観光カリスマ
小澤 庄一氏

これまでの経緯

- | | |
|-------------|--|
| 昭和50年(1975) | 「足助の町並みを守る会」が発足し、町並み保存活動が本格化する。 |
| 昭和53年(1978) | 第1回「全国町並みゼミ」を開催する。 |
| 昭和55年(1980) | 香嵐渓内に「三州足助屋敷」が開館する。 |
| 昭和61年(1986) | 観光協会を中心として、香嵐渓内に自生する「カタクリ」の保護・育成が始まる。 |
| 昭和63年(1988) | 香嵐渓ライトアップが始まる。 |
| 平成5年(1993) | 「AT21倶楽部」、「あすけまちづくりの会」が発足し、まちづくり活動が本格化する。 |
| 平成11年(1999) | 町並みを活かすイベントとして、「中馬のおひなさん」が始まる。
「観光ボランティアガイド」が発足し、活動を始め。 |
| 平成14年(2002) | 町並みを活かすイベントとして、「たんころりん」が始まる。 |

香嵐溪ライトアップ

少しでも多くの観光客に香嵐溪を楽しんでもらうため、町が香嵐溪園地内にライトアップ施設を整備。シーズン中の日没から午後9時まで点灯することにより、紅葉の新たな魅力を創出させ、観光客増に貢献。



香嵐溪ライトアップの様子



三州足助屋敷手仕事の様子

三州足助屋敷

失われつつあった山里の自給自足の生活文化と手づくりの技を保存継承しようと、「生きた」民俗資料館を町が建設。手仕事を実演するお年寄りの姿や、高齢者の知恵と技術を受け継ぐ若者の姿を見ることができ、当初の予想を超える入館者で入込客の通年化に寄与。

町並みを活かしたイベント

● 中馬のおひなさん

この地に伝わる「土びな」や各家に眠っていたおひなさんを軒先に並べるイベントを、まちおこしグループのAT21倶楽部が企画。当初3,000人の来客が現在では7万人となり、町をあげてのイベントに成長。

● たんころりん

AT21クラブの発案で、陶器の灯火器『たんころりん』に、和紙を貼った竹箆を被せ、柔らかな光で美しい夏の夜を演出。現在では、その枠を超えた仲間の会「たんころりんの会」が中心となり、イベントを盛り上げるためにたんころりんづくりの講習会等を実施。



中馬のおひなさんの様子



町並みに並ぶたんころりん

カタクリの花

香嵐溪内で発見されたカタクリの花の群生を、昭和61年から観光協会が保護・育成。昭和63年以降は周辺住民の協力を得、枯れ枝拾い等の地道な活動を継続し、当初1,500㎡だった群生地は現在5,000㎡に拡大。



カタクリの花の群生地

問い合わせ先

- 足助観光協会
Tel : 0565 - 62 - 1272 <http://www.mirai.ne.jp/~asuke>
- 豊田市役所 足助支所
Tel : 0565 - 62 - 0600